

スケジュール

第1日 6月16日(土)

	8階 大会議室	2-403	2-507	2-508	2-509
セッション1 10:00-11:30			- パネル1 - レトリック研究会	言語教育 ディシプリン	アジア研究
支部会 11:40-12:10	北海道 (2-405) 東北 (2-507) 関東 (2-403) 中部 (2-508) 関西 (2-401) 中国四国 (2-506) 九州 (2-509)				
12:10-13:00	昼食				
セッション2 13:00-14:30			- パネル2 - 文化「比較」の実践	コミュニケーション 理論	対人関係
14:40-15:10	開会式				
15:10-15:40	総会				
15:50-16:50	基調講演 「思想として『文化のパターン』を再読する」 太田好信				
17:00-18:30	シンポジウム 「文化人類学とコミュニケーション学」				
18:40-20:30	懇親会 (於 西南クロスプラザ レセプションホール)				

第2日 6月17日(日)

	8階 大会議室	2-403	2-507	2-508	2-509
セッション3 9:00-10:30			- パネル3 - 関西支部パネル	メディアと効果	政治制度と歴史
特別セッション1 10:40-12:10		- 合同パネル - レトリック&コミュニ ケーション教育 研究会			
12:10-13:00	昼食				
セッション4 13:00-14:30			- パネル4 - 支部大会パネル	自己・他者・対象	
特別セッション2 14:40-16:10		-特別シンポジウム- 西南学院大学			
16:10-16:20	閉会式 (2-403)				

Program Timetable

Day 1 - June 16 (Sat)

	Conference Hall 8F	2-403	2-507	2-508	2-509
Session 1 10:00-11:30			Panel 1: Japan Society for Rhetorical Studies	Language Education as a Discipline	Asian Studies
Chapter Meeting 11:40-12:10	Hokkaido (2-405) Tohoku (2-507) Kanto (2-403) Chubu (2-508) Kansai (2-401) Chugoku & Shikoku (2-506) Kyushu (2-509)				
12:10-13:00	Lunch				
Session 2 13:00-14:30			Panel 2: Critique of Cultural "Comparison"	Communication Theory	Interpersonal Dynamics
14:40-15:10 15:10-15:40 15:50-16:50 17:00-18:30 18:40-20:30	Opening Ceremony General Assembly Keynote Address by Yoshinobu Ota (Kyushu University) Symposium: "Communication Studies and the Cultural Anthropology" Reception (@ Seinan Cross Plaza)				

Day 2 - June 17 (Sun)

	Conference Hall 8F	2-403	2-507	2-508	2-509
Session 3 9:00-10:30			Panel 3: Kansai Chapter Panel	Media and Effects	Political System & History
Special Session 1 10:40-12:10		Joint Panel: Divisions of Rhetorical Studies & Com. Education			
12:10-13:00	Lunch				
Session 4 13:00-14:30			Panel 4: Chapter Proposed Presentations	Self, Others & Signs	
Special Session 2 14:40-16:10		Special Symposium: Seinan Gakuin Univ.			
16:10-16:20	Closing Ceremony (@ 2-403)				

基 調 講 演 Keynote Address

思想として『文化のパターン』を再読する

——文化人類学者ルース・ベネディクトと大戦間期のアメリカ合州国——

太田 好信

九州大学・比較社会文化研究院

ルース・ベネディクト (Ruth Benedict 1887-1948) は、『菊と刀』の著者として日本では馴染み深い米国の文化人類学者である。『菊と刀』は文化人類学の著作として発表されたわけではないが、その方法論や概念操作は、『文化のパターン (Patterns of Culture)』(1934年刊)をそのまま継承している。前者は後者の応用編といってもいいだろう。したがって、『菊と刀』の理論・方法論を理解するには、『文化のパターン』を読解することが不可欠である。しかし、『文化のパターン』は日本の人類学界でもほぼ無視されており、『菊と刀』だけが一人歩きしてきた印象がある。米国においては『文化のパターン』は一般読者を対象とした啓蒙書であるから、広範な読者を獲得したことは事実である。残念ながら、40年代後半になると文化人類学内部では個別の解釈をめぐる批判的書評も多数現れ、いまでは顧みられることも稀になった。『菊と刀』にいたっては、米国の日本研究者たちにさえ忘れ去られようとしている。

だが、この両著ほど、米国と日本とを結びつける文化人類学のテキストは他にはないわけであり、わたしは特別な思い入れをもっている。わたしを再読へと誘ったのは、その思い入れのためである。

この著作には、20年代から継続していた「文化人類学とは何か」という、米国社会における学問のアイデンティティをめぐる問いへの人類学者からの応答である、というまったく別の側面もある。その彼女の応答は、学問を網羅的に検証した結果得られた知識を土台にしているわけではない。彼女が人間の存在を見ずえるときの独特な視点を文化人類学と呼んでいるのである。『文化のパターン』のなかの北米先住民をめぐる個別の解釈が批判され、その理論的枠組みといわれてきた「文化とパーソナリティ論」が古めかしいものになってしまったこととまったく正反対に、ベネディクトの視点の影響力は強いどころか、文化人類学の暗黙の前提にまでなっている。

『文化のパターン』を狭義の文化人類学的関心——たとえば、北米先住民についての個別の解釈や「文化とパーソナリティ論」——から解放し、米国社会そして当時のグローバルな世界情勢のなかで形成された文化人類学者ベネディクトの思想が表明されている書物として読解すれば、『文化のパターン』も、きわめて現代的なテキストとして甦る可能性をもつ。30年代の米国は不況下、ファシズムと民主主義、ナショナリズムとコスモポリタニズム、人種(生物学的決定論)と文化(可塑性)、伝統と近代、統合と多様性、リベラリズムと共産主義、相対主義と普遍主義、ヨーロッパとアメリカ、という——多くは古く、なかには新しい——いまなお再考を要する(政治・社会・文化を取り巻く)論争により分断されていた。そのような状況から生まれた一方で、それらを調停しようとした思想家として、文化人類学者ベネディクトの著作『文化のパターン』を読み直してみたい。

【経歴】

太田 好信 (おおた・よしのぶ) Yoshinobu Ota

1954年札幌市生まれ。ミシガン大学大学院人類学博士課程修了(1987 Ph.D. 取得)。現在、九州大学大学院比較社会文化研究院教授。文化人類学。(文化理論、米国文化人類学史：先住民研究、ポピュラー音楽、漁民文化：南西諸島とグアテマラ共和国のマヤ民族)

著書に『トランスポジションの思想』(1998、世界思想社)、『民族誌的近代への介入』(2001、人文書院)、『人類学と脱植民地化』(2003、岩波書店)、共訳書にジェイムズ・クリフォード著『文化の窮状』(2003、人文書院)、共編書に『メイキング文化人類学』(2005、世界思想社)など。

6月16日(土) Saturday June 16 17:00-18:30 @ 8F大会議室 (Conference Hall)

シンポジウム Symposium

文化人類学とコミュニケーション学

司会： 野村 直樹 (名古屋市立大学)
シンポジスト： 太田 好信 (九州大学)
宮原 哲 (西南学院大学)
青沼 智 (神田外語大学)

太田先生の基調講演を受け、大会テーマである「文化人類学とコミュニケーション学」の交差点の現在そして将来について、講演者と共に討議する。人類学者エドワード・T・ホールの異文化コミュニケーション研究への貢献、レトリシャンであるケネス・バークの仕事に触発・啓発されたクリフォード・ギアーツの一連の著作等、コミュニケーション研究と文化人類学がこれまで多くの問題系を共有してきたことは周知である。本シンポジウムは、基調講演において太田先生が試みたベネディクト(『文化のパターン』)再読をコンテキストとし、現在私たちが置かれている社会的・歴史的・思想的状況やポリティカルエコノミーの下でのコミュニケーション研究と文化人類学の更なる「共作」、また新たなる接点の可能性について対話を通じて探っていく。特にポスト・コロニアルなもの・ことを経験する私たちにとって、文化人類学という学問のアイデンティティをめぐる問いに真摯に取り組まれている太田先生の仕事が示唆するところは大きい。コミュニケーションの領域でも、ホールが提唱したコンテキストとコンテンツとの関係はこれまで異文化コミュニケーションや、対人コミュニケーション研究で広く使われてきた概念だが、最近になって理論としての説明能力に疑問を呈する研究者も少なくない。文化人類学と、コミュニケーションの研究者が、それぞれの概念や理論のパラダイム、また研究方法について意見を交わすことには大きな意義がある。「異文化について民族史を書くこと」の正当性が人類学者にとってもはや所為・自明のものではないのならば、本シンポジウムにおける対話が、「社会のニーズ」という得体の知れないレーゾンデートルに安易に頼りがちな私たちコミュニケーション研究者の姿勢に対する内省の契機にもなれば幸いである。

特別セッション1 Joint Panel

- レトリック&コミュニケーション教育研究会合同パネル -

レトリック研究とコミュニケーション教育の接点を探る

Bridging Rhetorical Studies and Communication Education

コーディネータ：松本 茂（立教大学）
シンポジスト：吉武 正樹（福岡教育大学）
臼井 直人（神田外語大学）
師岡 淳也（神奈川大学）

レトリック研究の視点や成果が、長年にわたりコミュニケーション教育において様々な形で活かされてきた。とくに、パブリック・スピーキングやディベートの指導において、関係性が強かった。しかし、近年、レトリック研究の関心、対象、目的などが大きく変わりつつあり、コミュニケーション教育の捉え方も変化しつつある。

このような状況に鑑みて、本シンポジウムでは、CAJのコミュニケーション教育研究会とレトリック研究会のメンバーが、レトリック研究とコミュニケーション教育の接点を整理し直し、近年およびこれからのレトリック研究の知見をコミュニケーション教育においてどのように活かすかということなどについて討議する。

とくに、公共圏および対抗公共圏に関する研究の知見のパブリック・スピーキング教育への応用、議論教育におけるレトリック的アプローチの展開、コミュニケーション教育に関連する施策をレトリカル批評することの意義、大学のカリキュラムにおけるコミュニケーション教育の在り方などのトピックに焦点をあてる予定である。

特別シンポジウム Special Symposium

コミュニケーション研究・教育の現在、過去、未来 ～ 西南学院大学の場合 ～

パネリスト：宮原 哲（兼司会）、今堀 義、
ドウエン・オルソン、坂田 史 他

日本におけるコミュニケーション学は、日本コミュニケーション学会（CAJ）の前身である、太平洋コミュニケーション学会（CAP）の発足以来、学問の独立した一分野としての地位を確立、維持、発展することに多くのエネルギーを費やしてきた。CAPの大会が日本で開催された1970年代と比較すると、研究者の数が増え、大学でのコミュニケーション学部・学科も設立されるようになり、学問領域としての市民権を得たかのように見える。

しかし、大学での現状はコミュニケーションの分野が文学部や外国語学部などの一部としてしか認められていないという、旧来の組織構成に見られるように、必ずしも他の分野からその存在価値や学問に対する貢献が正当な評価を受けていない。

西南学院大学では、1970年代半ばに文学部外国語学科英語専攻の中に、「スピーチ・コミュニケーション」、「英語学」、「実務英語（現在はビジネス・コミュニケーション）」の三本柱を作り、以来米国の大学院で学位を取得した教員四名を擁するに至っている。順調に発展しているかのように見えるコミュニケーション部門は、実際には文学部の中ではその内容が正当に理解、評価されているとは言い難い状況である。単なる「話し上手」、「英語ペラペラ」な学生を育てるプログラムと認識されている。

そこで、このパネルでは、西南学院大学で、これまでにコミュニケーション部門がどのような努力をし、どのような障害を経験し、現在の状態に至っているのか、また、今後どのような方向性を模索すべきか、という点に関する「ケース・スタディ」を提供したい。

6月16日(土) Saturday June 16 11:40-12:10

支部会議 Chapter Meetings

各支部でミーティングを行います。部屋割りについてはスケジュール表をお確かめ下さい。

Chapter meetings will be held in the assigned rooms, as listed on the schedule of events.

6月16日(土) Saturday June 16 14:40-15:10 @8F 大会議室 (Conference Hall)

開会式 Opening Ceremony

司会： 五十嵐 紀子

開会の辞： 近江 誠（南山短期大学・日本コミュニケーション学会 会長）

挨拶： G.W. バークレー（西南学院大学 学長）

6月16日(土) Saturday June 16 15:10-15:40 @8F 大会議室 (Conference Hall)

総会 General Assembly

司会： 前田 尚子

6月17日(日) Sunday June 17 16:10-16:20 @Room 2-403

閉会式 Closing Ceremony

司会： 村井 佳世子

閉会の辞： 近江 誠（南山短期大学・日本コミュニケーション学会 会長）

昼食のご案内

東キャンパス 西南クロスプラザ・レストランをご利用ください。17日（日）も利用できます。

懇親会のご案内

会場：西南クロスプラザ・レセプションホール

会費：¥5,000

申し込み方法：事前申し込みについては1ページをご覧ください。当日申し込みも可能ですが、人数が限定されます。受付にてお申し込み下さい。

書籍・教育機材の展示

2号館7階中会議室にて、各種の展示を行っています。ご自由にご覧ください。

(株)明石書店 (株)エス・キュー・マーケティング (株)松柏社 Taylor & Francis Group
(アイウエオ順)

A variety of educational materials are to be displayed at Building #2, 7th Floor, "Chu Kaigi Shitsu".

6月16日 (土) Saturday June 16

受付 9:30~ Registration commencing at 9:30

時間	教室	プログラム Session
10:00 11:30	2-507	セッション 1 パネル1 レトリック研究会 Japan Society for Rhetorical Studies 「レトリック研究におけるプロブレマティークの再考」 司会：青沼 智 (神田外語大学) 1. エレノア・ローズベルトの演説における説得の研究 山上 登美子 (日本大学) 2. 統治のための統計 -コミュニケーションの社会科学的研究に関する一考察- 板場 良久 (獨協大学) 3. 「レトリカル・シチュエーション」の条件 -アメリカ独立宣言の再解釈- 菅野 遼 (獨協大学)
	2-508	言語教育ディシプリン Language Education as a Discipline 司会：川内 規会 (青森県立保健大学) 1. Teaching Gender-neutral Language in EFL Classrooms Chiyo Myojin (Kochi University of Technology) 2. 傾聴訓練が高校生のコミュニケーションスキルに与える効果 浅野 良雄 (足利短期大学)
	2-509	アジア研究 Asian Studies 司会：伊佐 雅子 (沖縄キリスト教学院大学) 1. 中国日系企業に従事する日本人と中国人とのコミュニケーションに関する調査研究 -注意喚起表現、依頼懇願指示表現、賞賛表現、断り表現の特徴及び誤解や摩擦の解明をめぐって- 辻 周吾 (京都外国語大学) 2. Cherry Blossom as Civilizational Expression: A Deliberation on Japanese Communication from Anthropological Evidence. Takuya Sakurai (University of Oklahoma) 3. Korean Popular Culture in East Asia: Is the "Korean Wave" different from the "Japan Wave"? Hyejung Ju (University of Oklahoma)
11:40 12:10		支部会議 Regional Chapter Meetings 2-401 関西支部 Kansai 2-403 関東支部 Kanto 2-405 北海道支部 Hokkaido 2-506 中国四国支部 Chugoku & Shikoku 2-507 東北支部 Tohoku 2-508 中部支部 Chubu 2-509 九州支部 Kyushu
昼食 Lunch		
13:00 14:30	2-507	セッション 2 パネル 2 文化「比較」の実践 Critique of Cultural "Comparison" 司会：池田 理知子 (国際基督教大学) パネリスト：池田 理知子 (国際基督教大学) 丸山 真純 (長崎大学) 鄭 偉 (神田外語大学)
	2-508	コミュニケーション理論 Communication Theory 司会：ドゥエン・オルソン (西南学院大学) 1. ケータイ小説のメディア論 小坂 貴志 (立教大学) 2. 異文化体験がもたらすもの -アメリカ中西部の大学院での留学生活についての民族誌的省察- 花木 亨 (南山大学) 3. ピエール・ブルデューとコミュニケーション研究 師岡 淳也 (神奈川大学)

13:00 14:30	2-509	対人関係 Interpersonal Dynamics 司会：蔵元 禮子（青森公立大学） 1. 複数接触場面における遊びとしての個人攻撃とラポール修復のプロセスについて 水島 梨紗（北海道大学） 2. Influence of Interpersonal Relationships on the Construction/Reconstruction of the Meaning of Marriage for Always-single Japanese Women over Time Eriko Maeda (California State Univ., Long Beach) Michael L. Hecht (The Pennsylvania State University) 3. 医師・患者関係における理想と現実のギャップが患者満足度に与える効果 —医療消費者を対象とした共分散構造分析— 塚原 康博（明治大学）
14:40 15:10	8F 大会議室	開会式 Opening Ceremony 開会の辞：近江 誠（南山短期大学 日本コミュニケーション学会・会長） 挨拶：G.W. バークレー（西南学院大学 学長）
15:10 15:40	8F 大会議室	総会 General Assembly
15:50 16:50	8F 大会議室	基調講演 Keynote Address 思想として『文化のパターン』を再読する ——文化人類学者ルース・ベネディクトと大戦間期のアメリカ合州国—— 太田 好信（九州大学・比較社会文化研究院） 司会：近江 誠（南山短期大学）
17:00 18:30	8F 大会議室	シンポジウム Symposium 文化人類学とコミュニケーション学 司会：野村 直樹（名古屋市立大学） シンポジスト：太田 好信（九州大学） 宮原 哲（西南学院大学） 青沼 智（神田外語大学）
18:40 20:30	西南 クロス プラザ	懇親会 Reception 当日の申し込みも可能です（10名程度）。受付にて、お申し込み下さい。（¥5,000）

6月17日（日） Sunday June 17

受付 9:00～ Registration commencing at 9:00

時間	教室	プログラム Session
9:00 10:30	2-507 2-508	セッション 3 パネル 2 関西支部パネル Kansai Chapter Panel 「実践的な言語コミュニケーション」 司会：守崎 誠一（神戸市外国語大学） 1. e-learningにおける言語コミュニケーションの光と影 野澤 和典（立命館大学） 2. 異文化コミュニケーション研究になぜ第2言語の視点が必要か？ 八島 智子（関西大学） 3. Malapropism in Communication Alex M. Hayashi (Tokiwakai Gakuen University) メディアと効果 Media and Effects 司会：本郷 好和（国際基督教大学） 1. メディアにおける「外国人犯罪・事件」の表象の問題性 —現代日本社会のパラノイア的思考の検証— 船山 和泉（熊本大学） 2. 英語学習者に与えるメディアの影響力 野中 昭彦（関東学院大学） 池田 祐子（福岡大学） 3. 映画の会話シーンにおけるセリフとショットの関係～話者交替のタイミングの観点から 木津 久美子（神戸市外国語大学）

<p>9:00 10:30</p>	<p>2-509</p>	<p>政治制度と歴史 Political System and History 司会：桜木 俊行 (Gustavus Adolphus College) 1. Common European Framework of References for Languages (CEF) におけるコミュニケーション能力観 石橋 嘉一 (総合研究大学院大学) 2. Foreign News as Civilizational Expression: A Gebserian Analysis of Japanese Historical and Cultural Contexts Takuya Sakurai (University of Oklahoma) Eric M. Kramer (University of Oklahoma) 3. 明治期における討論について 周 莉恵 (九州大学)</p>
<p>10:40 12:10</p>	<p>2-403</p>	<p>特別セッション2 合同パネル Joint Panel レトリック研究会&コミュニケーション教育研究会 「レトリック研究とコミュニケーション教育の接点を探る」 コーディネータ：松本 茂 (立教大学) シンポジスト：吉武 正樹 (福岡教育大学) 臼井 直人 (神田外語大学) 師岡 淳也 (神奈川大学)</p>
<p style="text-align: center;">昼食 Lunch (食堂が利用可能です)</p>		
<p>13:00 14:30</p>	<p>2-507 2-508</p>	<p>セッション 4 パネル 4 支部会パネル Chapter Proposed Presentations 司会：中林 真佐男(千里金蘭大学) 1. 新潟県の企業における「コミュニケーション能力」の定義と重要性 東北支部 関 久美子 (新潟青陵大学短期大学部) 2. 医療や介護の現場での通訳・翻訳プロダクトと現実の表現とのギャップ 関西支部 水野 真木子 (千里金蘭大学) 3. アメリカ日系企業における呼びかけの習慣：呼びかけに現れる象徴的意味 九州支部 筒井 久美子 (熊本学園大学) 自己・他者・対象 Self, Others and Signs 司会：丸山 真純 (長崎大学) 1. コミュニケーションとしての『自己への対処』 —高度資本主義社会におけるその現れ方を再検討する— 前田 尚子 (神田外語大学) 2. 「客体」を取り巻くレトリック —調査対象から他者、そして記号へ— 平野 順也 (熊本大学)</p>
<p>14:40 16:10</p>	<p>2-403</p>	<p>特別セッション2 特別シンポジウム Special Symposium コミュニケーション研究・教育の現在、過去、未来～西南学院大学の場合～ パネリスト：宮原 哲 (西南学院大学) 今堀 義 (西南学院大学) ドゥエン・オルソン (西南学院大学) 坂田 史 (西南学院大学) 他</p>
<p>16:10 16:20</p>	<p>2-403</p>	<p>閉会式 Closing Ceremony</p>